

2025 年度「JICA 国際協力賞」が決定

「280km の車いす行進で法制定に導いた女性」

「国連機関 WHO 推奨の日本発医療テック」

「沖縄発“障害主流化”」

—世界と日本の未来を拓く、国際協力の先駆者たちを顕彰—

■日程:2026 年 1 月 21 日(水) 16:00~17:00

■会場:JICA 麹町本部 113 会議室 (東京都千代田区二番町 5-25 二番町センタービル)

JICA(独立行政法人 国際協力機構)は、卓越した国際協力の取組を通じて経済社会課題に多大な貢献をされた個人・団体を顕彰する「JICA 国際協力賞」の今年度受賞者 3 組を決定いたしました。

本賞は、国際協力の現場において、開発途上国の社会経済の発展などに著しい功績を収めた個人・団体を顕彰するもので、2026 年 1 月 21 日(水) 16:00 から、受賞者を JICA 本部(麹町)にお招きする授賞式を執り行う予定です。

現場のストーリー、政策背景、そして最新の国際潮流をご取材いただける、意義深い機会になればご案内いたします。ぜひご来訪、ご取材をご検討いただけますようお願い申し上げます。

また、同日 10:30 からは、受賞者のうちの一名、ウェンディ・バランテス氏による、日本とコスタリカの国際協力の歩みを語る記念講演会も別途、同じ JICA 本部にて開催いたします。授賞式と合わせ、現場の熱量や社会変革の軌跡を多角的に取材いただける機会となれと思います。ぜひ併せてのご取材をご検討いただけますようお願い申し上げます。(次頁★印、ご参照下さい。)

【2025 年度 受賞者と功績】 ※詳細は別添をご参照ください。

① ウェンディ・バランテス 氏 (コスタリカ 障害者自立生活センター「モルフォ」代表)

車いすでの 280km 行進といった行動力などにより、コスタリカでの法制定とラテンアメリカ 14 カ国への障害者の自立生活制度の普及を実現。障害者を主体とする日本の理念を国際的に展開。

② 原 量宏 氏 (香川大学名誉教授) 及び

尾形 優子 氏 (メロディ・インターナショナル(株) CCO)

ICT(情報通信技術)を活用した日本発のモバイル胎児モニターで、WHO(世界保健機関(国連))の推奨も得て、世界 17 カ国で母子保健の質を向上。日本国内の離島などでも導入。

③ 高嶺 豊 氏 (特定非営利活動法人エンパワメント沖縄 理事長)

障害主流化の理念を JICA 研修プログラムにも反映、国際的に根付かせ、コロンビアなど各国の具体的な制度改善を後押し。沖縄県・共生社会条例制定にも貢献、日本でも社会変容を促した。

②原 量宏 氏(香川大学名誉教授／NPO 法人 e-HCIK 代表) 及び
尾形 優子 氏(メロディ・インターナショナル株式会社 CCO)

香川から世界へ、ICT(情報通信技術)も活用して「遠く離れた命」を
繋ぎ、救う——

モバイル胎児モニター(CTG)の基本原理解を築いた原量宏氏と、産婦
人科用の電子カルテの普及などに取り組んだ尾形優子氏は、小型
胎児モニターと ICT を高度に連携させ、遠隔地の医師による助言を
可能とする「遠隔医療ネットワーク」を構築。

妊婦の腹部に装着することで遠隔地から胎児の心拍や妊婦のお腹
の張りなどをモニタリングできる世界初のモバイル胎児モニター
「iCTG」を開発。2022 年に WHO 推奨機器としても選出され、今では
日本を含む 17 カ国において母子保健の向上と、医師のいない僻地
を「安心の場」へと変える、過疎地の命を守る技術として還元。



iCTG

【略歴】

原 量宏 氏

1970 年、東京大学医学部産科婦人科学教室に入局。主に産婦人科領域における ME 機器、
特にモバイル胎児モニター(CTG)及び超音波診断装置の開発・臨床応用に従事。1979 年に
は、超音波が胎児に与える影響に関する研究で東京大学より医学博士の学位を授与される。
香川医科大学母子科学講座助教授を経て、2000 年に香川医科大学(現香川大学)附属病院
医療情報部教授として医療 IT ネットワークの構築に尽力。2009 年に同大学名誉教授、2021 年
には客員研究員に就任するなどの功績から、経済産業大臣賞や総務大臣表彰を受賞し、園
遊会への招待や首相官邸での意見交換を行うなど、「世界中の安心・安全な出産」を支える活
動を続ける。

尾形 優子 氏

京都大学大学院修了後に香川県で医療 IT の道に進む。2002 年に株式会社ミトラを創業し、日
本初の周産期電子カルテを普及。香川県の離島などで暮らす妊婦の不安を解消したいという
思いから、2015 年にはメロディ・インターナショナル株式会社を設立。CTG(モバイル胎児モニ
ター)の生みの親である原量宏氏と連携し、遠隔地でも胎児の状態を確認できる世界初のフル
ワイヤレスモバイル胎児モニター「iCTG」を開発。「ものづくり日本大賞」経済産業大臣賞や「日
経ウーマン・オブ・ザ・イヤー」など数多くの賞に輝き、デジタル技術で世界中の安心な出産を
支える活動を牽引。

【受賞のポイント】

《次世代型モバイル医療》

世界初のフルワイヤレスモバイル胎児モニター「iCTG」(持ち運び可
能な小型モニターで胎児の心拍や陣痛の状態などを測る機器)を開
発。医師不足の地域でも安全な出産を支える「日本発のスマート医
療モデル」を提示。



《WHO 推奨による信頼獲得》

「iCTG」は 2022 年、日本製のスマート医療機器として初めて WHO(世界保健機関)の推奨機器に
選定。同年版で世界から選出されたわずか 7 製品のうちの 1 つという快挙であり、世界的な周産
期死亡率の改善や効率的な緊急搬送システムの確立に直結するとして高く評価される。